

## 大根

7日は急に気温が下がり、コートが欲しい朝晩となりました。8日は最低気温が今シーズン初めて一桁になったようです。いよいよ鍋が活躍する季節になりました。鍋といえば、欠かせない脇役が大根。本校の袋状の畑では、大根の葉が大きく成長しています。地中の根は、どんどん大きくなっていることでしょう。収穫の日が楽しみです。



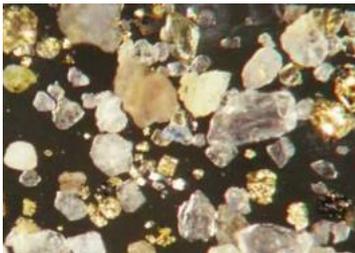
清瀬中では、技術科の栽培の授業として大根を育てていますが、1年生の理科においても大根を扱います。種子植物の分類のところで「主根と側根」が出てきます。「大根は太い部分は主根、横に伸びるひげのような部分が側根」「私たちは大根の主根の部分を食べているんだよね」などと説明をすることがあります。

11月1日の朝に桜島が噴火し、噴煙は1000mに達したとニュースが報じていました。ひとたび噴火を起こすと麓の街では火山灰の処理に追われます。桜島もまた大根との関連は深く、桜島で生産される「桜島大根」はその大きさで有名です。火山灰のマイナス部分が報道されがちですが、実は桜島大根の大きさは、桜島特有の火山灰に起因するのです。桜島大根を他の土地で育ててもあまり大きくなりません。桜島特有の火山灰にて育てることで大きく成長させることができるそうです。軽くて柔らかい火山灰の土壌は通気性や排水性が高く、大根の肥大を邪魔しないのです。

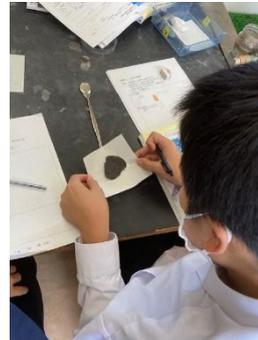


鹿児島県公式 HP より

噴火を報じた11月1日、第一理科室を訪ねると、1年生が火山噴出物を観察していました。植物や動物の観察と異なり地味な観察なのですが、よく見ると様々な形、様々な色、時として光を反射して美しく輝きます。この火山灰は「桜島」の火山灰であったのです。火山灰が缶に詰められ販売されていました。その名も「ハイ どうぞ」灰をどうぞなのです。



桜島の火山灰 MATINA HPより



大根は1年生の国語の授業においても扱います。「ダイコンは大きな根?」という説明文です。読み進めていくと、衝撃的な内容へと発展していきます。根は白い部分の半分から下の部分だけで、上の部分は根ではないというのです。そうなんです。上の部分は胚軸と呼ばれ茎にあたる部分(正確には根と茎をつなぐ部分)なのです。十数年前の理科の授業において、小生がこのことを説明すると生徒たちは???と、大混乱。多くの生徒は、全てが根であると思っていました。説明文は新たな発見を与えてくれます。国語で扱う文章は、理科であり社会で数学であり、様々な学問が集積しています。

それでは問題です。カブの膨らんだ部分は、根でしょうか、茎でしょうか。

回答を「ハイ どうぞ!!」

